

＜今年度の取組＞

- 人口減少が進む雄勝地域において移転元地での農地的利用（薬草園）による持続可能なエリアマネジメントの仕組みの構築を実証的に検討する。
- 市の制度を活用し、官民連携による地域のエリアマネジメントの仕組みと今後の進め方について合意形成を図る。

所在地：宮城県石巻市雄勝町

主な用途：農地的利用（地域交流や新たな産業の創出）等

※雄勝中心部（拠点エリアを除く）の市有地約 20ha のうち、約半分が活用予定のない移転元地となっており、様々な方向性を検討

■ 位置図



1. 目的と背景

薬草園づくりの実証実験を通じて、非営利法人の取組の持続化、若者の雇用創出、地域の魅力向上を推進

- ・ 震災後地域人口が激減する中、移転元地の利活用によって新しい産業を興し、若者の雇用を生み出し、持続的で特色ある地域づくりを行う必要がある。
- ・ (一社)雄勝花物語は、地域課題の解決を自社の利益とするソーシャル・ビジネスを目指しており、ボランティア等の協力を得ながらガーデンパークを立ち上げ・運営してきたが、周辺も含めた持続可能な地域づくりに課題がある。

離半島部の移転元地の利活用・維持管理を持続可能とするための官民連携エリアマネジメントの仕組みの構築

- ・ 民間活用が進み難い離半島部の移転元地について、市が構想するエリアマネジメントの仕組みを最大限に活かすための官民の考え方のすり合わせが必要である。



雄勝地域中心部（国土地理院）



地区内実証実験エリア

2. 本取組のターニングポイント

- ① 薬草園の土づくり、導入樹種検討、植栽方法等のノウハウを専門家の助言・指導やボランティアの協力を通じて得たこと
- ② 地域の復興活動に関わってきた有識者を交え、持続的なエリアマネジメント構築の検討を行ったこと
- ③ 市の移転元地利活用制度を踏まえ、継続的な官民協議を通じて未利用地を含めた半島全体の土地利活用の具体化検討を行ったこと

本取組を進める際に想定された課題

【薬草園活動】

- ・「薬草園」活動に向けた土づくり、地域に合った薬草の樹種、植栽・栽培方法、景観向上等のノウハウの会得が必要。
- ・将来的な自立的な運営継続のための担い手づくりや収益性の検討が必要。

【官民連携エリアマネジメント】

- ・周辺を含めた移転元地の維持管理と、非営利団体の活動の両立継続が必要。
- ・市の移転元地利活用制度について、地区の土地利用計画（移転元地等利活用推進計画）の認定や、市有地貸付条件や補助制度のほか、貸付収入を未利用地の維持管理へ還元する仕組み等、持続可能な土地利用ができるよう、ルール化・整理していくことが必要。
- ・市による地区の土地利用計画の認定等を進めることにより、官民連携によるエリアマネジメント活動の仕組みづくりや、市の公的計画への移転元地利活用の活動の位置づけを進めることが必要。

今年度の取組項目

- I 土壌・排水調査に基づく栽培基盤づくり
- II 薬草の品種検討及び日陰をつくる樹木の検討
- III 実証栽培用の植栽と栽培技術の確立
- IV 持続可能なエリアマネジメントの検討

3. 取組経過や主な調整プロセス

6～2月 薬草園づくりや活動のためのノウハウを会得し、多くのボランティアの参加により活動を実施

- ▶ 本地区のガーデンづくりに携わっている（株）泉緑化による、薬草園のプランニング、土づくり、本地域に適した樹種のワークショップを通じた選定、植栽・栽培方法の指導等の支援を通じてノウハウを得ることができた。※p5-3 図1 参照
- ▶ これらの活動は、これまでのガーデンづくり等を通じて培ってきたボランティアのネットワークを活かし、千葉大学、東北学院大学、浜松学院大学、茨城県立岩瀬高校、仙台市立柳生中学校、企業、団体等からのボランティア（延約270人参加）により、多様な参加交流を通じて実施した。※p5-3 写真1 参照

ターニングポイント①

薬草園の土づくり、導入樹種検討、植栽方法等のノウハウを専門家の助言・指導やボランティアの協力を通じて得たこと

11～3月 市の移転元地の利活用制度に基づく、地区の土地利用計画認定の推進と、市有地貸付及び未利用地の維持管理への還元の仕組みの構築

- ▶ 石巻市においては「移転元地等利活用ガイドライン」（2021年3月策定）に基づき、官民連携による移転元地の利活用と維持管理のスキームの構築を目指していたが、本地区への適用に向けては有識者による助言やハンズオン事業によるサポートが必要であった。
- ▶ 雄勝地域においては、低平地の利活用と運営を目的とした、「雄勝ガーデンパーク推進協議会」が2021年10月に設立し、民側の行政との協議・調整主体が明確となった。併せて、これまで地域の復興活動に継続的に関わっていただいた有識者が協議会の参与となり、持続的なエリアマネジメント構築に向けた専門的見地からの助言を頂けることとなった。
- ▶ 地区の土地利用計画の認定や、市有地貸付条件や補助制度のほか、貸付収入を未利用地の維持管理へ還元する仕組みなどについて、市と協議会が継続的に協議を経て官民連携による土地利用の在り方やその方向性を確認し、土地利用計画の認定に向けたスキーム、スケジュール等について合意形成を図ることができた。

ターニングポイント②

地域の復興活動に関わってきた有識者を交え、持続的なエリアマネジメント構築の検討を行ったこと

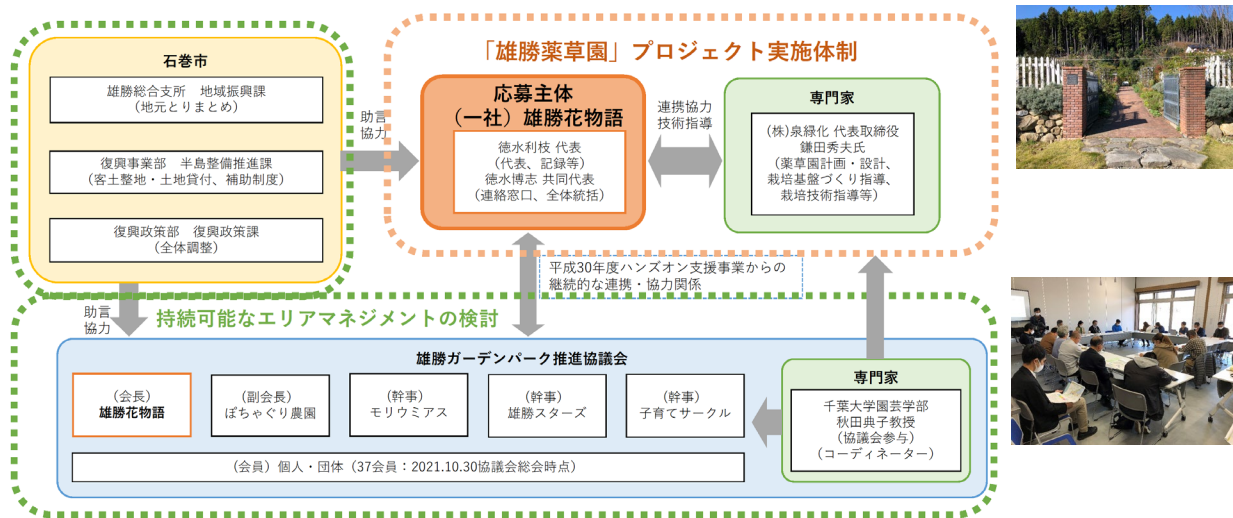
ターニングポイント③

市の移転元地利活用制度を踏まえ、継続的な官民協議を通じて未利用地を含めた半島全体の土地利用の具体化検討を行ったこと

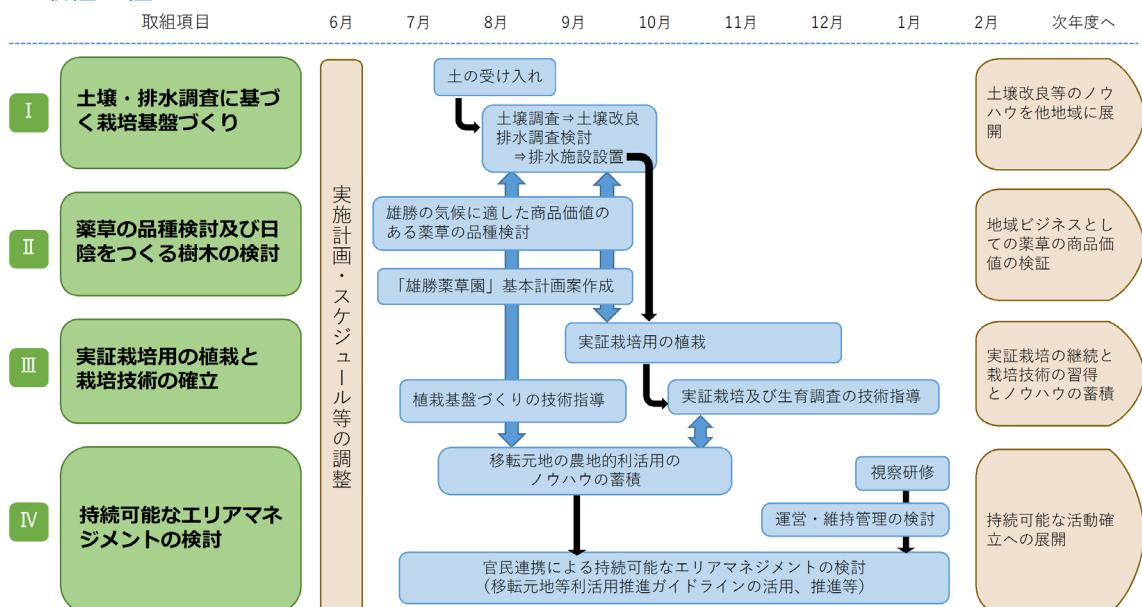
■ 薬草園活動及び官民連携エリアマネジメント検討を行う体制

薬草園活動は雄勝花物語が主体となり実施。

官民連携エリアマネジメント検討は、石巻市と雄勝ガーデンパーク推進協議会が連携して実施



■ 取組工程



■ 取組成果や重要な検討資料等

【薬草園活動】

瑠璃色の光に包まれ雄勝の浜風が私たちをそへと包んでくれる
こは、香りと微笑みがこぼれる小さな園

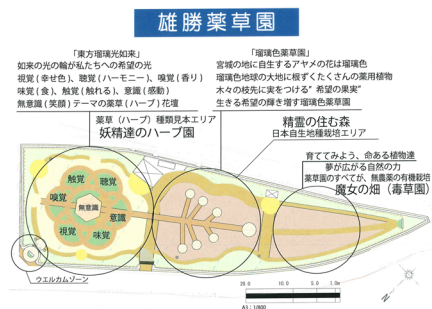


図1 薬草園プランニング

導入樹種の調査・検討

品種名	アマチャヅル【甘茶葉】
写真	
学名	ウリ科 アマチャヅル属 多年草
科/属名	ウリ科 アマチャヅル属
開花期	8月～9月
実期	8月～9月
薬草としてのデータ	シチコウタン【七葉蓮】 全草 8月～9月の開花期 水洗い後、陰干しする。
生薬名	トリチルベノイドサボン ジネンノイドなど70種類以上のサボン...鎮静作用 グルマニウム
効果/効能	強壮、強精、利尿作用、肝臓障害、ストレス性疾患
備考	高価な朝鮮人参の成分と同じ構造のサボニンを含んでいる。



写真1 ボランティアによる植栽・石積み活動

【官民連携エリアマネジメント検討】



石巻市と協議会の打合せ

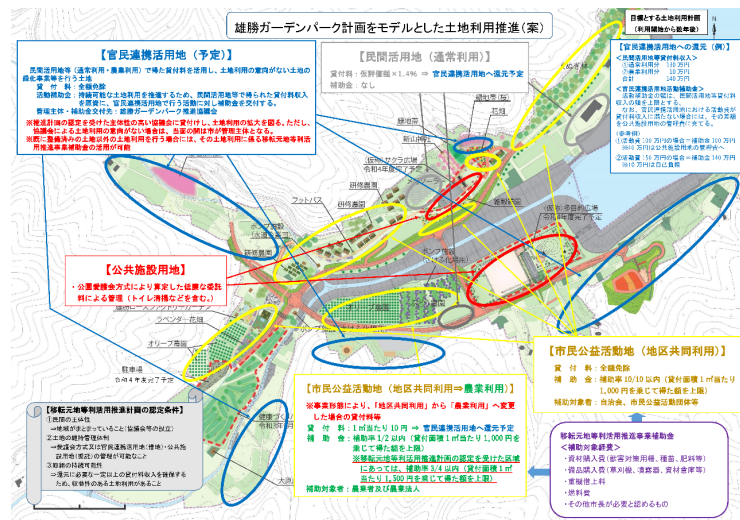


図2 雄勝ガーデンパーク計画をモデルとした土地利用推進

4. 今年度の取組成果

成果1「持続可能な薬草園活動のノウハウを蓄積」

- ▶ 造園・植栽の専門家の助言・指導と延べ約270人のボランティア※による薬草園づくりを通じて、薬草園のプランニング・土づくり・導入樹種検討・植栽方法等、持続可能な薬草園活動のノウハウを蓄積した。

※和光大学5名、千葉大学15名、東北学院大学15名、浜松学院大学20名、茨城県立岩瀬高校40名、仙台市立柳生中学校90名、宮城県教職員組合20名、大阪電機連合組合20名、東京海上日動社員研修20名、穴太衆積み研修20名等

成果2「官民連携エリアマネジメントの検討・手続きの推進」

- ▶ 地域の5つの活動団体を主体とし、外部有識者を含めた「雄勝ガーデンパーク推進協議会」が2021年10月に設立し、低平地利活用についての推進母体ができた。
- ▶ 官民が連携し、市有地の貸付料を未利用地の維持管理へ還元するスキームを検討し、概略段階に留まっていた市の移転元地利活用制度を具現化した（市による地区の土地利用計画の認定等）。 ※p5-4 図2 参照



雄勝ガーデンパーク推進協議会発行のかわらばん。薬草園活動の状況や、5つの団体による活動計画が示されている

■ 地区の土地利用計画（移転元地等利活用推進計画）の市による認定スケジュール（予定）

2021.6～2022.3	市の関係部局と雄勝ガーデンパーク推進協議会との協議・調整
2022.3～5	計画認定手続きについての官民合意
2022.6	計画認定手続き等の庁内決定
2022.6～7	協議会による計画認定申請書の提出
2022.7	雄勝地域まちづくり委員会による計画に対する意見聴取
2022.7	市による計画審査、計画認定
2022.7	認定書交付

5. 今後の方向性

薬草園

- ・ 持続的な薬草園活動に向けた、**若者の担い手育成**や、薬草の健康増進への活用、癒しの体験プログラムの開発等、**収益性の確保と農福連携を見据えた支援活動**の展開。

官民連携エリアマネジメント

- ・ 地区の土地利用計画に基づき、**継続的な官民協議**を踏まえた、**地域の各団体による土地利用**と、**未利用地の官民連携での活用方法・維持管理**の推進。
- ・ 雄勝地域を移転元地の利活用推進のモデルとした、**他地域への水平展開**。

6. 取組主体・関係者の声

実施主体（雄勝花物語）の声

- ・ 薬草園のプランづくりと土づくりを踏まえ、薬草の植栽を12月に実施し、一部の薬草は根づく前に凍害を受けたが、大部分のハーブと薬草は冬越しすることができて、特に大きな問題は発生しなかった。よって、専門家の助言を踏まえワークショップを通じて検討し選定した品種や薬木は、雄勝の気候と土壌に適した品種であることが実証栽培によって明らかになったと思う。今年度の活動で得た経験や知見を、今後の薬草園活動に活かしていきたい。
- ・ 採算性が取れる持続的な薬草園経営に向けて、地域おこし協力隊員（2022年4月インターン開始）による栽培技術の習得及び栽培技術の向上を図る必要がある。またハーブを活用した体験プログラムの実施とガーデンのカフェで提供する薬膳料理や健康茶等の商品開発によって収益性を確保するとともに、さらには生きづらさを抱えた若者の雇用を生み出す「農福連携事業」による加工品の製造および製薬会社との連携栽培等による収益性も見据えた活動展開を進めていきたい。
- ・ 市と継続した議論ができ、結果的に市の事業として「移転元地等利活用推進計画」に認定される方向に進めたことは大変喜ばしい。



雄勝花物語のみなさま

実施主体（石巻市）の声

- ・ 今年度、市と雄勝ガーデンパーク推進協議会が、官民連携による移転元地の利活用と維持管理のスキームの構築に向けて継続的に協議を重ねてきたが、土地利用の実績や経験が少ない中での新たな取組だったこともあり、土地利用の方針に係る合意形成に時間を要したが、今回のハンズオン支援により、土地利用推進計画の認定に向けた手続き、スケジュール等が整理され、市と協議会が活発な議論を行ったことで、市の移転元地利活用制度についての相互理解が深まり、地域全体の環境や価値を計画的に維持・向上させるための仕組みづくりが進展した。2022年7月の計画認定に向けて、引き続き市と協議会が連携しながら土地利用の推進を図る。
- ・ さらには、雄勝地域が移転元地の利活用推進のモデルとなるよう、他地域への展開可能性について検討し、持続可能なまちづくりを総合的に推進していく。

有識者の声

- ・ コロナ禍の厳しい状況の中でも、出来る範囲で多くのボランティアが参画し活動を行ったことは高く評価できる。
- ・ 雄勝地域の活動の特徴は2つある。1つ目は「ジェンダー」で、女性や高齢者が活動の中心的な役割を果たしていることや多くの若者がボランティアとして参加していることにより活動の持続性の源泉となっている。2つ目は「脱成長」で、身の丈の活動であることを最も重要視し無理をして活動範囲を広げることを想定していない。新しい資本主義を具体的に実践している場であり、多くの人が直感的に価値を感じ、関わっているのだと思う。
- ・ 雄勝地域は低平地の利活用に対して先進的な取組を実施している。これを模範的な取組として、石巻市内の別の低平地や東北エリアの移転元地に展開頂きたい。